

農業施設（ハウス・果樹棚）の降雪対策について

東備農業普及指導センター

岡山地方気象台が令和7年2月4日に発表した「大雪に関する岡山県気象情報 第2号」によると、6日にかけて、中国地方の上空約5,000メートルには、氷点下36度以下のこの冬一番の強い寒気が流れ込み、冬型の気圧配置が強まる見込みです。そのため、5日から6日は、気温が平年よりかなり低くなり、積雪によるビニルハウス等の倒壊、水道管の凍結のおそれがあります。つきましては、今後の気象情報に注意するとともに、次の対策を参考に地域の実態に応じ、農作物や農業施設の管理をお願いします。

[雪の予想] 令和7年2月4日5時35分 岡山地方気象台発表 大雪に関する岡山県気象情報 第2号

北部では、5日昼過ぎから6日にかけて大雪となる見込みです。また、南部でも積雪となる所があるでしょう。雪雲が現在の予想以上に発達し、同じ所で降り続いた場合には、警報級の大雪となる可能性があります。

4日6時から5日6時までに予想される24時間降雪量が多い所で、

- 北部 山地 20センチ
- 平地 7センチ
- 南部 5センチ

その後、5日6時から6日6時までに予想される24時間降雪量が多い所で、

- 北部 山地 40センチ
- 平地 15センチ
- 南部 7センチ

その後、6日6時から7日6時までに予想される24時間降雪量が多い所で、

- 北部 山地 15センチ
- 平地 5センチ
- 南部 1センチ

1 事前対策

(1) ハウス

- ・パイプの接合部などを中心に点検を実施するとともに、筋かいや補強用の柱を取り付け、ハウスの強度を高める。
- ・ハウスの屋根に防風ネットをかけている場合は、雪の滑降を妨げるので取り除く。
- ・燃油残量を確認するとともに暖房機が正常に機能するかを事前に確認しておく。
- ・積雪が予想される際は、日中でも早めに暖房機を運転し、内張りを開放して融雪を促す。
- ・ハウスの屋根に積もった雪は、早めにハウスサイドに落とす。ハウスサイドの雪も早急に排除する。
- ・ハウスが積雪に耐えられないと予想される場合は、事前に被覆を除去しておく。雪害後は、直ちに破損部を補修する。

(2) 果樹棚（ぶどう・なし）

- ・積雪に備えて棚の点検や補修を行う。特に、棚上にトンネル被覆資材や防鳥網等があると雪が積もりやすくなるので除去する。除去できない場合は、定期的に園地を見回り、トンネル被覆や防鳥網に積もった雪の振るい落としを行い、資材や樹体の損傷を防ぐ。ただし、除雪作業中は、作業者の安全確保には十分注意する。

2 事後対策

(1) ハウス

- ・栽培作物の生育中に積雪があれば早急に除雪し、光線透過量を高めるとともに、破損箇所を早急に補修し、生育に影響しないよう加温、保温に努める。全壊したものは、できるだけ早く資材を撤収し、栽培作物の保護に努める。
- ・施設の確認、除雪作業の際には作業者の安全確保を最優先し、降雪が収まり施設の安全が確保された時点で行う。除雪を行う場合は、ヘルメットや滑りにくい履物を着用し、複数人で作業を行うなど安全確保に努める。降雪初期において屋根への積雪が少なく、かつ、安全を確保できる場合には、除雪作業や加温機等の起動を行う。
- ・停電発生時には予備電源により加温機等を作動させる。また、養液栽培等で作物の萎れが予想される場合、あらかじめ貯水しておいた水を用い速やかに手動によるかん水を実施する。停電復旧後は、天窓や内張り等が正常に作動するか確認する。
- ・施設倒壊のおそれなくなった後、屋根・軒下・ハウス間の積雪は、次回の降雪に備えて直ちに除雪する。
- ・降雪前に被覆資材を除去していても、施設全体もしくはハウスの軒高を超える積雪があった場合は、大きな被害を受ける可能性があるため、骨組が完全に雪に埋没しないうちにできるだけ除雪を行う。
- ・融雪時には、施設周囲の「額縁排水」に努める。

(2) 果樹棚（ぶどう・なし）

- ・支線の緩み、アンカーの浮き上がり、支柱の損傷などが見られる場合には、早急に修復、補強を行う。全壊や破損した場合は、できるだけ早く資材を撤去し、樹体を保護・修復する。

(3) ぶどう樹体の保護・修復

- ・樹体が倒れたものは、樹体の裂傷等の被害を確認し、主幹、主枝部に亀裂が発生している場合にはマイカー線等による結束を行ってから、根を傷めないように起こして支柱等を利用し樹体を固定する（図1）。
- ・主幹、主枝が割れている場合は、ビニル等で包んでひもで縛り、雨水が染み込まないように固定する（図2）。
- ・主幹、主枝の分岐部が裂けている場合は、ビニル等で包んでひもで縛り、雨水がしみこまないように固定する。
- ・主枝が折損している場合は、折れ部分を切除し切り口に保護剤（トップジンMペースト等）を塗布する。主幹部が折損するなどして回復不可能な樹は伐採し、復旧作業をしやすくする。

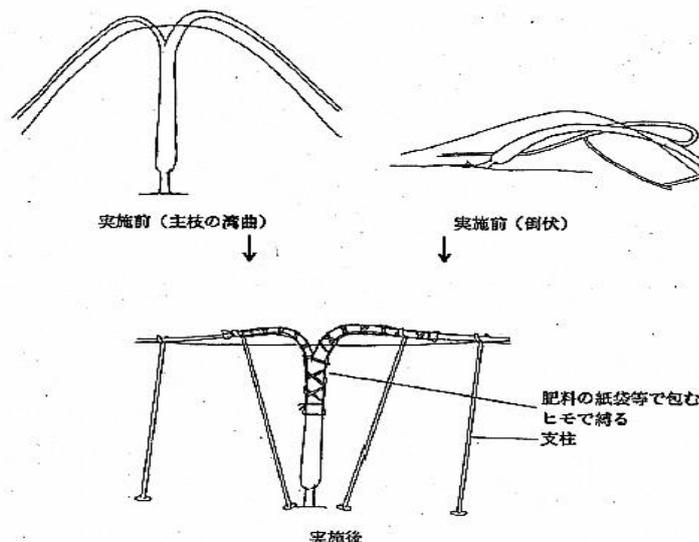


図1 倒伏樹、主枝の湾曲樹の回復対策（山梨県）

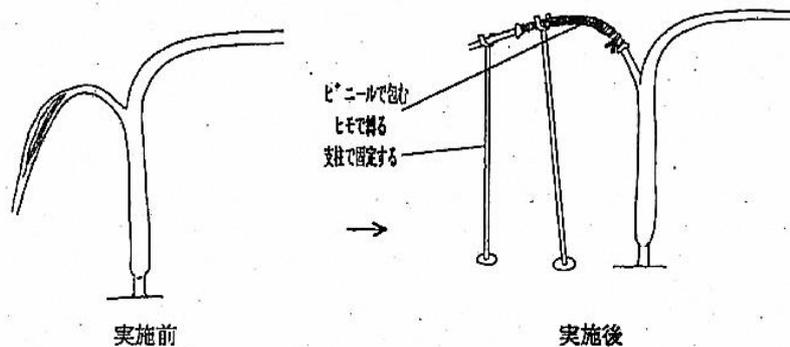


図2 主幹、主枝の割れ回復対策（山梨県）